

◆ JICA 技術協力プロジェクト フィリピン本邦研修「降水ガイダンス・雷雨予測」

フィリピンでは、台風などの気象災害が深刻な状況の下で、より防災に役立つ気象情報サービスの改善、それらの予測情報提供を可能にするために数値予報ガイダンス*や、予報作業支援システムの活用による予報作業の改善を進めようとしています。そのような状況の中で、今回の本邦研修では、以下の2点を目標としました。

1. 防災上重要な強雨や雷雨に関する数値予報ガイダンスについて、気象庁における開発の現状と今後の計画及び関連する技術の動向を習得する。

これらの目標に向けて、気象庁では、強雨予測のガイダンスの開発状況に関する講義、予報作業支援システムの機能紹介・デモンストレーション、雷雨のナウキャストに関する講義などがそれぞれの担当専門家から実施されました。また、気象庁本庁の予報現業室の見学に加え、仙台管区気象台では地方中枢官署での気象防災業務に関する講義、予報現業室見学などが行われました。



外部の施設見学としては本所防災館を訪問し、同施設で暴風雨体験などを体験しました。この際には、研修生が出演者となって、フィリピンにおける気象防災啓発用のビデオ撮影も行いました。このビデオは、フィリピン国内で行う市民を対象として予定しています。

これらの忙しい研修の日々の中でも、20～30 歳代の研修生の日本文化・食に関する関心は旺盛で、時間外、休日を活用して東京周辺の各地を精力的に訪れ、日本滞在を満喫していました。

今回の研修で得られた知識がフィリピンにおける気象業務の発展に活用されることを期待します。



仙台管区气象台予報現業室見学



気象業務支援センターにおける講義「日本におけるIBF」



本所防災館における暴風雨体験

(国際事業部)

(この記事は、2023 年 11 月実施の本邦研修についてです)